

に雄大な姿……案内書の説明にあるとおりの仏像に  
しばし時のたつのを忘れた。「やぶの中へ入らないで下  
さい。マムシがいますから」という、登り口にあった注  
意書も忘れて下山した。

曇った空から薄日が射し始めた。旅の終わりのぶどう  
狩りを祝福するように束の間のお天気である。予約して  
あったぶどう畑に入り、童心に返って楽しんだ。これも  
また安心院の魅力の一つである。

帰りは山越えして湯布院へ出る。はじめてのコース。  
こんな所にこんな道があったのかと驚く。湯布院へ入る  
と、山の中で演習でもしているのか、立ち並ぶ自衛隊の  
テントを見て、ふと、秋の日米合同の大演習のことが思  
い出され、古代から現実へと引き戻される。

二日間の雨の旅を終えて、私はいま、ゆっくりと、旅  
の思いにひたっている。

てり続く盂蘭盆会の夕べなり 涼しかれとて墓に水

金子 帰山

あなたもご一緒に旅をしてみませんか。楽しい旅を。

尚、文中の写真、地図等につきましては

「84 町勢要覧かまえ」を使用させていただきました。

## 短歌 ②

研修旅行「蒲江町」に参加して  
はまゆうの見学

蒲江湾を見下ろす丘に墓地ありてキャンオン、穀と三基並びぬ

東光寺の山門わきの木の蔭に魚鱗供養塔苔むして立つ

七軒株風化のきざし現われぬ王子神社の森の中にて

悪相の十二の神のおわします薬師如来の家来なりとぞ

無口だと紹介ありし前田さん観光ガイドで雄弁ふるう

はまゆうの傍に寄り添い砂浜にわれしおらしくポーズを  
つくる

くわせたいたべさせたい会つくりたいそんな浦々はまゆ  
う育つ

はまゆうを佐賀関まで植え継がんにししみ励む村の情熱

あまかける日本一のはまゆうに夢を託してわれらは帰る

茂り合いて咲けるはまゆう雨の中海原向い何を語れる